

# ガラスにうたえば Songs in Glass

「ガラス」というと、みなさんは何を想うかべるでしょうか。透明感、きらきらと光をはらむ姿、冷たく硬い質感、もろく壊れやすい儚さ…。ガラスがわたしたちに喚起するイメージは、じつに多様性に富んでいます。それはガラスそのものが有する性質によるものといえるでしょう。ガラスという素材には光を透過させるのみならず、無限ともいえる色彩やフォルム、質感を生みだすなど、さまざまな表現の可能性が秘められているのです。

こうした多様な特性を生かしたガラスによる作品が、今日まで、世界各地域において、つくりだされてきました。この展覧会は、こうしたガラス作品の多彩な魅力を、さまざまな「うたう」をキーワードとしてご紹介するものです。〈Ⅰ. 自然を謳う〉〈Ⅱ. ガラスに響く歌とリズム〉〈Ⅲ. 詩をめぐるイメージ〉という3つの章により、19世紀末アール・ヌーヴォーから現代にいたるガラス芸術の世界をおたのしみください。

## I. 自然を謳う

いまからおよそ120年ほど前、ヨーロッパはフランスを中心に、アール・ヌーヴォーと呼ばれる芸術様式が誕生しました。この時代、新たな表現の可能性を秘めた素材として脚光を浴びるようになった素材、それがガラスでした。

アール・ヌーヴォー様式が起こった背景のひとつに、日本美術からの影響があげられます。ヨーロッパの作り手たちの眼差しは、日本の美術工芸品にくりかえし姿を現わす樹木や草花、鳥や

虫や魚といった自然に生きるみずみずしい生命へと注がれました。そしてそれらをモチーフとして、自らの作品にも取り入れたのです。

こうして遠く海をわたってもたらされた日本美術からインスピレーションを得た、自然に親しみ、自然を謳う心こそ、アール・ヌーヴォー芸術をつらぬく精神の大切な源流といえるでしょう。

No.	作家名	作品名	制作年	材質：技法／技法・材質
1	エミール・ガレ	花文花器	1880頃	ガラス：マルケトリー、金属酸化物による斑文、金彩、エナメル彩
2	エミール・ガレ	虫文花器	1889	ガラス：被せガラス、型吹き、エングレーヴィング
3	エミール・ガレ	貝殻湖水文花器	1889頃	ガラス：エナメル彩
4	エミール・ガレ	蜻蛉文花器	1880代	ガラス：エナメル彩
5	エミール・ガレ	アザミ文花器	1890頃	ガラス：エナメル彩、カボション
6	エミール・ガレ	蜂文花器のためのデッサン（5点）	1890頃	インク・紙
7	エミール・ガレ	紫陽花文花器	1890代	ガラス：被せガラス、エッチング
8	エミール・ガレ	百合文香水瓶	1890代	ガラス：被せガラス、エッチング、グラヴェール
9	エミール・ガレ	草花文花器	1890代	ガラス：被せガラス、エッチング
10	エミール・ガレ	雪中竹に鷹文花器	1897-1900頃	ガラス：被せガラス、エッチング、エナメル彩
11	エミール・ガレ	シクラメン文碗	1898-1900頃	ガラス：型吹き、被せガラス、マルケトリー、エングレーヴィング
12	エミール・ガレ	蜻蛉文花器	1900-04頃	ガラス：被せガラス、エッチング
13	エミール・ガレ	浜木綿文花器	1900頃	ガラス：エッチング、金彩、エナメル彩
14	エミール・ガレ	カトリア文花器	1900頃	ガラス：被せガラス、金属箔封入、エッチング、型吹き、エングレーヴィング
15	エミール・ガレ	花文香水瓶	1900頃	ガラス：被せガラス、エッチング、エングレーヴィング
16	エミール・ガレ	蜂文花器	1900頃	ガラス：エッチング、エナメル彩
17	エミール・ガレ	花に蝶文ランプ	1900頃	ガラス：被せガラス、エッチング
18	ガレ工房	湖水風景文花器	1904-14頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
19	ガレ工房	風景文花器	1904-14頃	ガラス：被せガラス、エッチング
20	ガレ工房	風景文花器	1905-10頃	ガラス：エナメル彩、エッチング、被せガラス
21	ガレ工房	洋蘭文花器	1906-1914	ガラス：被せガラス、エッチング
22	ガレ工房	花に蝶文蓋物	1910頃	ガラス：被せガラス、エッチング
23	ガレ工房	風景文舟形花器	1918-31頃	ガラス：被せガラス、エッチング
24	ガレ工房	木の実文花器	1920代	ガラス：被せガラス、エッチング
25	ガレ工房	湖水風景文花器	1920代	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング
26	ドーム	鷺に睡蓮文鉢	1890頃	ガラス：エッチング、金彩、エナメル彩
27	ドーム	鷺に睡蓮文三耳花器	1894頃	ガラス：型吹き、エッチング、金彩、エナメル彩
28	ドーム	落葉文ランプ	1890代	ガラス：エナメル彩、斑文ガラス、被せガラス、エッチング

No.	作家名	作品名	制作年	材質：技法
29	ドーム	白鳥水文指	1897-1900頃	ガラス：エナメル彩、エッチング
30	ドーム	雪に樹木文花器	1900-07頃	ガラス：ヴィトリフィカシオン、型吹き、エッチング、エナメル彩
31	ドーム	雪に樹木文花器	1900-07頃	ガラス：ヴィトリフィカシオン、エッチング、エナメル彩
32	ドーム	草の実文花器	1900頃	ガラス：エナメル彩、ヴィトリフィカシオン、被せガラス、型吹き、エッチング
33	ドーム	夕暮湖水文花器	1900頃	ガラス：被せガラス、エッチング
34	ドーム	矢車草と鈴蘭文花器	1902	ガラス：エナメル彩、エッチング、ヴィトリフィカシオン
35	ドーム	マロニエ文花器	1907-10頃	ガラス：被せガラス、エッチング、斑文ガラス、型吹き
36	ドーム	風景文花器	1910-14頃	ガラス：エッチング、エナメル彩
37	ドーム	スマレ文ボンボン入れ	1910	ガラス：エナメル彩、エッチング
38	ドーム	蝶文蓋	1910頃	ガラス：パート・ド・ヴェール
39	ドーム	孔雀文花器	1914頃	ガラス：被せガラス、斑文ガラス、エッチング、エナメル彩、ヴィトリフィカシオン
40	ドーム	昆虫文蓋物	1910代	ガラス：パート・ド・ヴェール
41	ドーム	ティーカップ	19世紀末	ガラス：エッチング、エナメル彩
42	ドーム	枯葉文花器	20世紀初期	ガラス：被せガラス、エッチング

## II. ガラスに響く<sup>うた</sup>歌とリズム

1920年代、著しい機械化にともない、都市生活のリズムや人々の美意識に変化がもたらされたバリでは、アール・ヌーヴォーに変わり、アール・デコと称されるスタイルが流行するようになります。ここには、簡潔なフォルム、モチーフの繰り返しや幾何学的な装飾による、特有のリズミカルな表現を見いだすことができます。

日用品のデザインが発達していたスウェーデンでも、ガラス工芸が大きく展開します。1913年、オレフォーシュ社は画家と職人

との協働を实践。透明なガラスに物語性ゆたかな浮彫をほどこした器がつくられました。北欧の生活のなかではぐくまれた、シンプルな形の内にも暖かみのある作品からは、いまにも軽やかなハミングが聞こえてきそうです。

また、歌劇や歌、文学と共通する主題によるガラス作品もみられます。こうした作品からは、歌や詞、詩の世界と交わりながら、ゆたかな広がりをもたせたガラス工芸の世界を垣間見ることができるでしょう。

No.	作家名	作品名	制作年	材質：技法
43	ルネ・ラリック	花器・バツタ	型：1913	ガラス：型吹き、着彩
44	ルネ・ラリック	花器・いんこ	型：1919	ガラス：型吹き
45	ルネ・ラリック	花器・いばら	型：1921	ガラス：型吹き
46	ルネ・ラリック	タイス	型：1925	ガラス：型押し
47	ルネ・ラリック	ヤドリギ文鉢	1920代	ガラス：型押し
48	ルネ・ラリック	花束文鉢	1920代	ガラス：型押し
49	ヴィクトール・アマリック・ヴァルテール	置物・青い鳥	1920代	ガラス：パート・ド・ヴェール
50	エーヴァルド・ダールスケーグ	蓋付台付鉢・メリーゴーランド	1926	ガラス：型吹き、カット、エングレーヴィング
51	ヴィッケ・リンドストランド	花器・真珠採り	1938	ガラス：吹込み、エングレーヴィング
52	ヴィッケ・リンドストランド	花器・漁網	デザイン:1934 1955/56	ガラス：型吹き、エングレーヴィング
53	ヴィッケ・リンドストランド	花器・秋	デザイン:1951頃 1950代	ガラス：宙吹き
54	ヴィッケ・リンドストランド	花器・洗濯	デザイン:1950-51 1950代	ガラス：型吹き、エングレーヴィング
55	エードヴァルド・ハルド	鉢・花火	デザイン:1951頃 1927頃	ガラス：型吹き、エングレーヴィング
56	エードヴァルド・ハルド	鉢・雷雨	デザイン:1921 1953	ガラス：被せガラス、型吹き、エングレーヴィング
57	エードヴァルド・ハルド	鉢・葡萄の収穫	デザイン:1922 1925	ガラス：型吹き、エングレーヴィング
58	岩田 藤七	花器・朝の歌	デザイン:1924 1962(昭和37)	ガラス：宙吹き、アップリケ
59	岩田 藤七	貝・浜辺の歌	1963(昭和38)	ガラス：宙吹き
60	岩田 藤七	水指・花		ガラス：型吹き
61	岩田 藤七	水指・おとづれ		ガラス：型吹き、金箔溶着

No.	作家名	作品名	制作年	材質：技法
62	岩田 藤七	茶入・静雨		ガラス：宙吹き
63	岩田 藤七	花器・初時雨		ガラス：宙吹き、金泊溶着
64	岩田 藤七	花器・瀬音		ガラス：宙吹き、斑文ガラス
65	藤田 喬平	飾篭・源氏物語	1983(昭和58)	ガラス、金属：被せガラス、色ガラス粒と金属箔による装飾、型吹き
66	藤田 喬平	飾篭・竹取物語	1992(平成4)	ガラス、銀：被せガラス、色ガラス粉と金箔、プラチナ箔による装飾、型吹き

### Ⅲ. <sup>うた</sup>詩をめぐるイメージ

20世紀半ば以降、今日にいたるまで、より多彩なガラス作品が世界各地で生みだされるようになりました。そうしたなかでも、古典的な詩歌や、説話、メルヘンなど、詩的なイメージを喚起する作品は少なくありません。

タイトルに示唆されているように、詩想ゆたかなテーマをほらんだ作品を制作している作家もいれば、実際に、造形とともに詩

をつくり提示している作家もいます。現代の作家たちは、自らの尽きせぬ創作への想いを、表現の可能性に満ちたガラスという素材に託しているといえるでしょう。

作品のタイトルに示された詩をひとつの手がかりに、イメージネーションあふれる現代ガラスの世界をおたのしみください。

No.	作家名	作品名	制作年	材質：技法
67	三宅 道子	心は君が影となりにき	2002(平成14)	ガラス、テラゾ (人造大理石)、鉄
68	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨
69	ロバート・ノッテンベルト	南極の亡霊・夢みる巢	1994	ガラス、あほうどりの頭蓋骨：板ガラスをコンピュータ制御高圧水噴射によりカット、サンドブラスト、酸みがき
70	ジニー・ラフナー	統一された球技場理論	1988	ガラス：ランプワーク、サンドブラスト、着色、ドローイング
71	リチャード・マイトナー	ジャック	1997-2000	ガラス：ホウケイ酸ガラス、宙吹き、エナメル焼付、金箔、一部色水を満たす
72	フィン・リュンゴー	蝶	1982	ガラス：被せガラス、金箔溶着
73	フィン・リュンゴー	おもちゃの国 I, II	1982	ガラス：エナメル彩、型吹き
74	フィン・リュンゴー	陸、海そして空	1982	ガラス：エナメル彩
75	アン・ヴォルフ	スープの王様がいない	1980	ガラス：被せガラス、サンドブラスト、エッチング
76	アン・ヴォルフ	マザーズ・ボウル	1981	ガラス：被せガラス、サンドブラスト、エッチング
77	キャピィ・トンプソン	家族の壺	1993	ガラス：宙吹き、エナメル焼付け、裏側から着色、透明エナメルによるグリザイユ
78	ロナルド・ベネル	「危機に瀕して」ヒューマニストの表現の試み	1994	ガラス：エングレーヴィング、カット、研磨
79	クリスティアン・シュミット	ノー・モア・フィッシュ	1993	ガラス：被せガラス、エングレーヴィング
80	池本 一三	ポートレート'88 I	1988(昭和63)	ガラス、銅：板ガラス、着色、サンドブラスト
81	池本 一三	SCENE 0212	2003(平成15)	ガラス：宙吹き、エナメル焼付
82	ジェイ・マズラー	醜いボウルの連作	1988	ガラス：スランピング、カット、サンドトラスト、油彩
83	ロバート・パルスキー	生は暑い夏の日のように彼のもとを過ぎさった	1987	ガラス：キャスト、接着着色、サンドブラスト
84	ハンク・ムルタ・アダムス	王冠を戴いた頭	1991	ガラス、銅：キャスト
85	塩谷 直美	嵐の予感	2001(平成13)	ガラス：キャスト、サンドブラスト、研磨
86	塩谷 直美	月の空	2001(平成13)	ガラス：キャスト、サンドブラスト、研磨
87	塩谷 直美	5回の夜	2001(平成13)	ガラス：キャスト、サンドブラスト、研磨
88	塩谷 直美	海を渡る夢	2002(平成14)	ガラス：キャスト、サンドブラスト、研磨
89	マテイ・ネグレアヌ	星の伝説	1988	ガラス、鉛箔：カット、接合、エングレーヴィング
90	マテイ・ネグレアヌ	星の伝説	1988	ガラス、鉛箔：カット、接合、エングレーヴィング
91	リハルト・チェルマーク	ラミア	1994	ガラス：キャスト、部分的にカット、研磨
92	扇田 克也	ワタシノアヲゾラ	1991(平成3)	ガラス：キャスト、サンドブラスト
93	扇田 克也	アメノヒモアル	1991(平成3)	ガラス：キャスト、サンドブラスト